

GP最後の椅子をかけた戦い

第65回「朝日新聞社杯競輪祭」は、11月21日、26日の日程で小倉競輪場に於いてナイターで開催される。また、ガールズグランプリトライアルが「競輪祭女子王座戦」として生まれ変わり、今年も記念すべき第1回大会が開催される。

今年のG1戦線で、最も存在感を示しているのは、古性優作である。古性優作は、昨年同様、高松宮記念杯を連覇すると、寛仁親王を達成した。今年の獲得賞金はすでに2億円を突破しており、第2位の



古性優作

山口拳に8千万円以上の差をつけてトップを快走中。勝率が昨年の25%から50・7%に跳ね上がったというのも、今年の充実ぶりを物語っている。優勝に最も近い存在とみて中心視した。今シリーズで最も注目を集めるのは脇本雄太だろう。オールスターで落車し、3カ月近くの欠場を余儀なくされたが、復帰戦だった11月4日市記念は衝撃を与える内容だった。二次予選は最終ホームあたりから開始して上がりタイム11秒0で圧勝。前のレースで怒涛のまくりを決め

た新田祐大の上がりタイムが11秒2だったのだからさすががわかる。マークして3着だった浅井康太が「オートレース場を走っているのかと思った」と舌を巻くほどだった。更に上積みも見込めるだけに、主役を演じる可能性は大いにありそうだ。

中四国勢も松浦悠士、清水裕友、犬伏湧也、太田海也など戦力は整っている。オールスターの落車で1カ月半欠場し、復帰後は一息不足の感があつた松浦だが、3場所目の11月防府記念in玉野の動きは復調を感じさせた。この大会は19年にG1初Vを飾っている。今年も獲得賞金ランキングは第6位で、SS班復帰をほぼ決めていく。チャンスが巡ってくる。松浦、清水にとつて犬伏、太田の存在は心強い。今年の犬伏はダービー、オールスター、寛仁親王牌で決勝に乗るなど、一段と飛躍を遂げた印象だし、自転車競技で大活躍を演じている太田は、オールスター②①④①④着、寛仁親王牌は一次予選で逃げ切り。本業でもG1で先行力を



松浦悠士

も不思議ではない。SS班4名を擁する北日本勢も互角の戦い。グラントストラマー・新田、昨年の覇者である新山響平、追い込み型も藤原慎太郎、守澤太志とそろっている。今年の世界選手権のケイリンで、銅メダルを獲得した中野慎詞もいるだけに、ライオンの総合力はかなりのもの。昨年のように北日本連係を奏功させて、優勝者を輩出する場面もありそうだ。

九州勢では嘉永泰斗、山田庸平らに上位進出の期待がかかる。今年の嘉永はウィナーズカップ、共同通信社杯で決勝進出、5月函館記念でVなど、自力攻撃に迫力を増した印象だ。山田は高松宮記念杯で優勝を果たすと、オールスターでも①②①②⑤着。初タイトルも視野に入る成績を残している。

獲得賞金ランキング第12位の郡司浩平は、5年連続のグランプリ出場に向けて勝負駆け。南関勢は深谷知広、松井宏佑、北井佑季らスピードスターがそろっている。台風の目と化すこともあるか。



第65回朝日新聞社杯競輪祭

第1回競輪祭女子王座戦

11/21 22 23 24 25 26 小倉競輪場



脇本雄太

今年も獲得賞金ランキング第12位の郡司浩平は、5年連続のグランプリ出場に向けて勝負駆け。南関勢は深谷知広、松井宏佑、北井佑季らスピードスターがそろっている。台風の目と化すこともあるか。

主力メンバー

※2023年11月11日現在

Table listing main members with columns for name, registration, and performance statistics.

朝日新聞社杯 競輪祭 出場予定選手

※2023年11月11日現在のデータです。

Table listing participants for the Asahi Shimbun Cup Keirin Festival with columns for name, registration, and performance statistics.

直近12場所成績

特別競輪成績表

記者のイチ押し!



車券の購入は20歳になってから。競輪は適度に楽しみましょう。競輪とオートレースの売上の一部は、機械工業の振興や社会福祉等に役立てられています。



小山 記者



岩谷拓磨



松井宏佑

松井宏佑はオールスターで落車。復帰戦の青森は「復帰まで」いままでが一番、長引きました。筋力もだいぶ落ちた」と本調子には遠かったが寛仁親王牌、京王閣と走って1走ごとに状態が戻っている印象。「セッティングを修正したら自転車の感じが良くなった」と戦える手応えをつかんだ。小倉は20年に初めてG1決勝の舞台を走った場所。ドームはナショナルチーム時代に磨いたスピードを発揮できる高速バンクだけに脚質ともマッチ。ここで完全復活を目指す。競輪史に名前を刻む吉岡稔真氏の愛弟子の岩谷拓磨。今年の8月に師匠の冠レースを優勝したが、意外にもこれが小倉での初優勝。その時の決勝は九州5車結束で犬伏湧也を打ち破り、不動會一門で上位を独占。ラインの力で強敵を倒せることを証明した。また松戸記念の準決は郡司浩平を相手に先行して2着に粘り、連係した兄弟子の小川勇介から「ベストバウトじゃないですか」と高い評価を得た。成績に波はあるが、九州ラインの先頭で戦う姿に注目したい。



竹内 記者



内藤秀久



大塚健一郎

大塚健一郎は、今年2月の全日本選抜で20年の競輪祭以来となるG1カムバックを果たした。G1フル参戦とはいかなかったが、今シリーズの競輪祭が今年5回目のG1出場。04年の寛仁親王牌で初めてG1ファイナルの舞台を踏んだ時が26歳。年齢を考えると頭が下がる思いだ。「競輪」に対しては、どこまでもストイック。その姿勢は、歳を重ねても変わっていない。まずは速さかっているG1での勝ち星を。そして、その先に、20代とは違う熟練の走りで、大塚が九州勢を陰から支える。「このままでは、ダメですね。G1では聞えない。一から叩き直さないと」と、寛仁親王牌では、羊の皮をかぶったままだった内藤秀久。競輪祭では、ギラついた「狼」に変貌することを期待したい。前回の松阪からは2週間以上空く、ゆとりローテーション。肉体的にも、精神的にもスイッチを入れ直すだけの時間はあるだろう。今年最後のG1で存在感を見せて、ファンの目にしっかりと内藤を焼きつけよう。



細川 記者



小松崎大地



山田久徳

3月の松山記念で落車のアクシデントに見舞われて前半戦は苦しい戦いを強いられていた山田久徳が、ようやく復調ムード。G1の成績も19走して6勝を含む9連対と連対率は50%にも迫る勢いで、高いレベルで安定している。9月京王閣は試した新車が噛み合わず精彩を欠いてしまったが、自転車を戻して狂いが生じていたペダリングも修正に成功した。競輪祭は21年に決勝にも進出している相性良い舞台で、今年最後のG1の大舞台で今年一番の輝きを放つ。寛仁親王牌の準決勝では犬伏湧也、寺崎浩平らスピード自慢の若手を破って決勝に進出している小松崎大地。「オールスターの落車で鎖骨を骨折して」やりたい練習ができなくなったので、少しアプローチ方法を変えて、できることを探しながら、できることを増やしていったら思ったよりも早く戻ってきたという感じですね。視点を覚えて体と向き合い、練習メニューにも変化を加えて急復調。6日制の長丁場のシリーズでも迷いなき仕掛けで勝ち進む。



権田 記者



伊藤颯馬



野口裕史

防府記念は、準決以外の3走を先行策で3連対の野口裕史。4番手に収まったことが裏目に出た準決は、見せ場なく8着に敗れた。「中団にいる方がキツかった。自分で駆けた方がタイムも出ているんで、前に出た方がいい」と、40歳の野口はあらためて自身の持ち味を再認識していた。G1になり一次予選から相手が強化されるのは明らかだが、逆に別線が野口を駆けさせる組み立てをしてくる可能性も十分にある。無欲の先行策で、あれよあれよという間にゴール。そんなシーンがあってもいい。直近の高松は初日に伊藤旭の番手から勝ち星を挙げた伊藤颯馬だったが、その後は連続のシナガリ負け。不安がないわけではないが、9車立てなら変わり身がありそうだ。前々回の防府記念では、3度バック奪取で2着3回。ラインの中本匠栄とワンツリーの一次予選では、仕上りの良さに手ごたえをつかんでいた。目を引いた早めの仕掛けは、G1への布石だろう。今年のラストG1は、しっかりと成績につなげる。

GIRLS KEIRIN

競輪祭女子王座戦

11/21(火)22(水) 23(木)



佐藤 水菜
【神奈川・114期】

GP 目指し運命の最終決戦

グランプリ出場権を争う最終決戦は競輪祭女子王座戦(G1)に格上げされ、賞金も大幅アップ。ただ、獲得賞金19位の佐藤水菜が出場権を獲得して、ポーターの6位の坂口楓華と7位の小林莉子の差が190万円あることを考えたら、決勝2着の賞金209万円を積み上げて下位からは獲得賞金でグランプリ出場は厳しい。現実的には小林もだが、2年連続でのグランプリ出場を目指す柳原真緒、山原さくら、佐藤と同じくナショナルチームの太田りゆ、梅川風子らは優勝するしかない。一方で、3位の尾方真生から坂口までの賞金差は50万円程度なので、賞金圏外の選手が優勝した場合、尾方、吉川美穂、石井寛子、坂口は誰が脱落するか分らない気の抜けない状況だ。優勝争いは、これまでの新設G1のパールカップ、オールガールズクラシックをそれぞれ制した児玉碧衣、佐藤を軸に繰り広げられよう。ジャパントラックカップから中ゼロ日でもレースになれば並外れた集中力を発揮する佐藤。佐藤との対戦では長い距離を踏んでの勝負を辞さない児玉のライバル対決はここも見ものとなる。現在獲得賞金1位の久米詩はプレッシャーなく走れる強みを生かして、佐藤、児玉超えを果たしたい。